



2025年の歩みと成果

A Year of Innovation, Impact, and Global Recognition

[Major Milestones](#)

2025年 グローバル難民フォーラム進捗レビューへの参加（スイス・ジュネーブ）



2025年12月、スイス・ジュネーブで開催されたグローバル難民フォーラム（GRF）中間会合（GRFプログレス進捗レビュー）のプレナリセッションにおいて、Robo Co-opとスペイン・ビルバオを拠点とするヤラン財団（Yaran Foundation）は、モンドラゴン大学（Mondragon Unibertsitatea）と連携し、難民主導によるデジタル・インクルージョンと協同組合型イノベーションを推進する戦略的プレッジを発表しました。本プレッジは、ラテンアメリカとスペインを結ぶ越境的なデジタル人材エコシステムの構築を通じて、避難を余儀なくされた人々が変革の担い手として活躍できる包摂的な雇用と起業のモデルを創出することを目指しています。

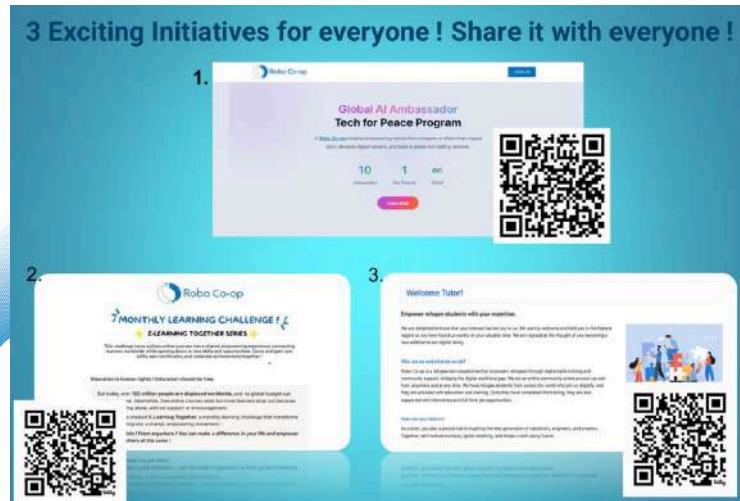
デジタル・インクルージョンと難民エンパワメントに関する円卓会議 (スイス・ジュネーブ)



また、Robo Co-opは、本フォーラムの関連イベントとして、ジュネーブ国際機関日本政府代表部のご後援のもと、Welcome Japan・Global Impact Sourcing Consortiumのご協力をいただき、International Trade Centre (ITC)・アジア太平洋難民の権利ネットワーク (APRRN) と共に、「デジタル・インクルージョンと難民のエンパワーメントに関する円卓会議」を開催しました。各国・地域から、政府、国連機関、企業、スタートアップ、難民当事者、NGOなど、多様な分野の関係者20名以上が参加し、実践的で活発な議論が行われました。

December 15-17, 2025

新たに3つの意欲的な取り組みを立ち上げました!



Robo Co-op 月間学習チャレンジ (The Robo Co-op Monthly Learning Challenge) は、参加者が未来に通用するテクノロジーおよびAIスキルを身につけることを目的とした、月次の学習プログラムです。Robo Co-op チューター・ポータル(The Robo Co-op Tutor Portal)では、プロフェッショナルがプロボノのチューターとして専門知識を共有し、世界中の学習者がテクノロジーを通じてスキルと自信を高められるよう支援しています。また、「グローバルAIアンバサダー：Tech for Peace プログラム」 (The Global AI Ambassador: Tech for Peace Program) は、難民がAIを創造的かつ責任ある形で活用し、自らのストーリーを発信しながらデジタル分野でのキャリアを築き、平和の促進に貢献することを後押しする取り組みです。

December 10-12, 2025

日本経済新聞社主催「JAPAN IMPACT ECONOMY EXPO 2025」



グローバル・インパクトソーシング・コンソーシアム (Global Impact Sourcing Consortium: GISC) のメンバーとして、Japan Impact Economy Expo 2025にブースを出展。社会的インパクトとデジタルトランスフォーメーション (DX) がビジネスの中で両立し得ることを発信。グローバル・ゲートウェイ・プログラムを通じた包摂的なデジタルスキル研修、コミュニティを基盤とした学習の取り組み、DX・自動化・品質保証 (QA) 分野におけるリモートでのプロジェクト参画、そしてキャリア・インパクト・ボンドやデジタル・インパクト・ソーシングといったインパクト・ソーシングモデルを紹介しました。

December 10, 2025

'Flow to AI' Partnership with Planna Inc.



Robo Co-opは、米国のコンサルティングファームであるPlanna Inc.と連携し、AI導入のプロセスを再設計する新サービス「Flow to AI」を共同で発表しました。本サービスは、AIを導入しても成果につながらない、現場に定着しないといった企業の課題に対応し、業務フローの最適化、データ品質の向上、そしてAI実装を一体的に支援することで、企業が「AIを自然に使いこなせる状態（AI Ready）」を実現することを目的としています。Robo Co-opのAIオートメーション実装力とPlannaの戦略設計力を掛け合わせ、持続可能なAI活用による企業変革を加速させていきます。

December 10, 2025

Pioneers in SDGs Awards 2025 – Innovation Awardを受賞



Robo Co-opは、国連総会80周年記念行事「SDGs CONFERENCE 2025」において発表された「Pioneers in SDGs Awards 2025 – Innovation Award」を受賞しました。本賞は、イノベーションと包摂性を通じて測定可能な社会的インパクトを創出した団体を国際的に評価するものであり、難民やシングルマザーを対象としたデジタル人材育成と包摂的な就労モデルにおける取り組みが高く評価されました。

Beyond2025にてGlobal Impact Sourcing Consortiumの取り組みを紹介



Robo Co-op代表・金が、社会課題解決とビジネスの両立をテーマに開催された「BEYOND 2025」に参加・登壇しました。本イベントは、社会起業家・NPO・企業など、さまざまなセクターが共創し、次世代に向けたサステナブルな仕組みづくりを考える場です。発表では、Robo Co-opが参加するグローバル・インパクトソーシング・コンソーシアム（Global Impact Sourcing Consortium: GISC）の取り組みを紹介しました。このコンソーシアムは、国内外の社会的に不利な立場にある人々を積極的に雇用する企業と、そうした企業へ業務委託することにより雇用を生み出す企業との連携を促進する、日本企業やスタートアップからなるネットワークです。Robo Co-opもその一員として、協働での市場開拓や実践の学びあい、日本における多様な人材の活躍推進への社会的な理解の促進に取り組んでいます。

November 1, 2025

組織の文化的多様性指標 「Cultural Diversity Index」 ゴールド認証獲得



「Cultural Diversity Index」は、一般社団法人Cultural Diversity推進協会が策定した「組織における文化的多様性への取り組みを評価する指標」です。Robo Co-opは、Cultural Diversity Index (CDI) にて「ゴールド認証」を受賞しました。この認証は、組織における多様性とインクルージョンの推進が評価され、グローバルな文化的多様性の促進に貢献している企業や団体に授与されるものです。

October 31, 2025

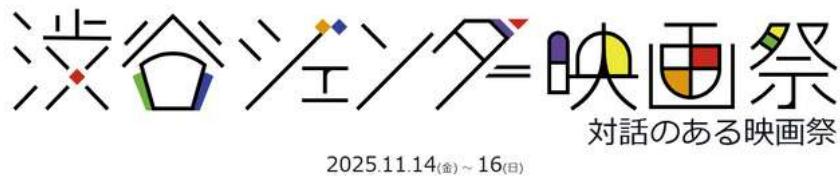
AI リスキリング・ウェビナー Google & Coursera



Google.org、ADB、AVPNが主催するAI Opportunity Fundウェビナーに登壇し、Courseraを活用したインクルーシブなAIリスキリングの取り組みを紹介しました。（協力団体：Baobab、育て上げネット、シングルマザーズシターフッド、グリーンフォレスト、AVPN Japan）

October 18, 2025

Shibuya Gender Film Festival 2025



Robo Co-op CEOの金が「渋谷ジェンダー映画祭2025」に登壇しました。映画『FLEE フリー』の上映後、サヘル・ローズ氏、ナビゲーターのアーヤ藍氏とともに、「周縁化された人々の声に耳を傾けること」をテーマにトークを行い、多様性や自分らしく生きることの意味について議論しました。

Robo Co-opと海士町、包括連携協定を締結



8月、島根県隠岐郡海士町（町長：大江 和彦 氏）と、地域社会の持続可能な発展とイノベーションの推進を目的とした包括連携協定を締結しました。今回の協定は、地域に暮らす住民、大人の島留学生をはじめ、多様な人々にデジタルスキルやAI研修の機会を提供し、国境や背景を超えてつながる「協力と支援の輪」を築くことを目的としています。小さな島から始まるこの取り組みは、地域課題解決のみならず世界と結びつく新しい社会モデルの創出を目指しています。

あわせて、同年11月23日に、海士町にて、「海士町国際交流フェスティバル2025」を開催しました。難民をテーマにした映画上映、ロヒンギャ料理を地域住民と共につくる料理教室、Robo Co-opメンバーによるミャンマーやシリアの料理のふるまい、AIバイブコーディング・ワークショップなど、交流と学びにあふれた1日となりました。

June - September , 2025

学び合いの取り組み



2025年6月から9月にかけて、シングルマザーによる5人1組での学び合いを実施しました。最初の1か月は、業務での活用を前提とした生成AIの基礎学習を実施。生成AIの特性や使いどころを整理し、その後の業務改善やRPA開発に向けた土台づくりを行いました。次月以降は、業務改善・RPA開発をテーマに、課題設定から設計・実装・テストと改善の繰り返しまでを学習・実践。参加者同士の学び合いに加え、先輩メンバーがメンターとして伴走し、質問や相談に対応する体制のもと進めました。また、開発スキルだけでなく、リモートで働くための心得やコミュニケーションの考え方についても学習を行いました。これは実際の業務を想定し、リモート環境でも自立して働きながら、継続的に成長していくことを目的としています。

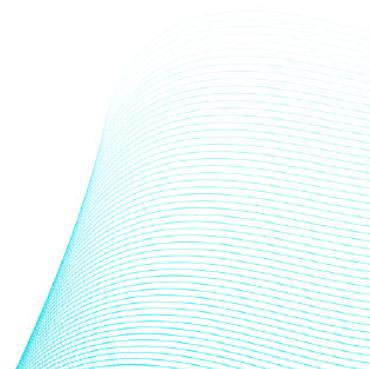
今後に向けて

学び合いは期間の終了がゴールではありません。現場で求められるのは開発力だけでなく、考える力・伝える力・主体的に動く力です。Robo Co-opでは今後も一人ひとりが「自分が社長」というマインドで考え、行動し、共創によって価値を生み出せる力を育てていきます。

教育と雇用の機会をすべての人に届けるための、難民による・ 難民のためのデジタル・インクルージョン



Robo Co-opのAI・オートメーション高度化人材育成イニシアチブは、難民および避難民の専門人材に対し、生成AIおよびエージェント型プロセス・オートメーション（APA）における実務直結型スキルを提供すると同時に、研修を実際のデジタル業務機会へと直接結びつけることを目的としています。最新のコホートでは、アフガニスタン、パレスチナ、スーダン出身の難民専門人材8名が、集中的かつ実践的な研修を修了し、高い修了率と成果を達成するとともに、プロンプトエンジニアリング、倫理的なAI活用、ワークフロー設計、オートメーションに関する実践的能力を習得しました。本プログラムは、認定取得にとどまらず、ポートフォリオ構築、有償の内部プロジェクト、そして法令遵守と倫理性を重視した労働モデルを通じたグローバルなデジタル就労プラットフォームへの参加といった、明確で体系的な進路を提供しています。Robo Co-opは、UNHCRインドおよびNGO MArIとの連携を通じて、持続可能な生計手段、経済的包摶、そして難民人材の中長期的な移動・就業機会を可能にする、拡張性のあるデジタル労働パスウェイの構築を推進しています。



CRCP 2025 Geneva - Impact Fund Presentation



Robo Co-opは、スイス・ジュネーブで開催された難民の再定住に関する国際会議「Consultations on Resettlement and Complementary Pathways」に参加し、政府、NGO、国際機関などとともに、難民を取り巻く課題に対する解決策を議論しました。米国の難民支援予算縮小という課題を背景に、参加者間の連帯と協力が新たなイノベーションを促進する機会となり、Robo Co-opは日本でパイロット運用中の革新的なファイナンスモデル「インパクトファンド」を紹介しました。本会合は、難民の社会参加や起業支援を含む持続可能な支援の可能性を広げる場となりました。

September 20, 2025

NIKKEI リスキリング



Robo Co-opの活動が「NIKKEI リスキリング」に紹介されました。記事では、難民やシングルマザーなど多様な人材がテクノロジーを通じてスキルを獲得し、新たな価値を生み出していく姿が取り上げられています。前編ではRobo Co-opが創出するインパクトの全体像を紹介し、後編ではより具体的な実践事例と今後の挑戦が取り上げられました。

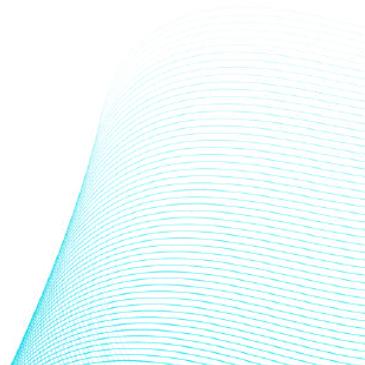
Robo Co-opが登壇・参加：CxO Council 第2回会合にて難民包 摂と起業支援をテーマに議論



6月6日、在日カナダ大使館にてWelcome Japan主催の「CxO Council 第2回会合」が開催され、Robo Co-opも出席しました。本会合には、企業・ソーシャルセクターを中心に80名が参加し、難民包摂と経済成長の両立をテーマに議論を行いました。

CxO Councilの活動報告に続き、難民起業家育成をテーマとしたパネルディスカッションを実施し、Robo Co-op CEOの金が登壇しました。また、Robo Co-opのメンバー2名が難民起業家としてビデオメッセージを寄せ、日本での起業経験や課題、学びを当事者の視点から共有しました。

後半のグループワークでは、難民包摂市場の形成に必要な条件や、CxO Councilを多様な主体が関与する共創の場として発展させていく方向性について、参加者間で活発な意見交換が行われました。



モンドラゴンから学ぶー難民とともに築く21世紀型協同組合ー



Robo Co-opはスペイン・ビルバオを訪問し、モンドラゴン大学、モンドラゴン協同組合、Yaran財団、政府関係者および現地パートナーと意見交換を行いました。世界最大級の労働者協同組合であるモンドラゴンに着想を得ながら、強制移動を余儀なくされた人材がデジタル労働を通じて活躍する「分散型・デジタル協同組合モデル」の可能性を探りました。リスクリソースやリモートワーク、スペインへの移住、AIを活用した協同組合起業、就労機会の創出に加え、「恩送り」を基盤とした持続可能な資金循環の構想を共有し、連帯とイノベーションによる次世代の協同主義の実現に向けた展望を深めました。

今後に向けて

2025年は、国際的な表彰や戦略的パートナーシップ、数々の先駆的な取り組みを通じ、大きな飛躍を遂げた一年となりました。これらの成果は、テクノロジーと多様性が、持続可能で包摂的な社会を実現するための強力な原動力であることを示しています。Robo Co-opは今後も、難民や移民、ひとり親家庭の母親をはじめとする、多様な背景をもつ人々が学び、働き、共に前向きな変化を創出できる社会の実現に向けて、着実に取り組んでまいります。

Building a society where diversity is naturally embraced through technology and co-creation.

